



〒 399-0711 長野県塩尻市大字片丘字南唐沢 6342-4

TEL (0263)53-8802 FAX (0263)51-1290 E-mail: kikaku@edu-ctr.pref.nagano.jp

目次

「1月の研修講座の実施方法の一覧」…………… p.1
「今年度の研修講座の様子」…………… p.2
「教職員研修会サポートの様子」…………… p.3

令和3年度 1月 総合教育センター研修講座 実施方法一覧

12月16日現在

各講座の変更やZoom等の接続方法について、講座担当者からメールまたは電話、FAX等で、管理職の先生を通じて受講者の方々に、随時連絡をしています。過日センター連絡用にご登録いただいたメールアドレスのメール確認をお願いします。

講座番号	講座名 サブタイトル	担当部	講座期間	講座の形態	別途連絡
1-1-02-20 1	高初研 課題研究研修	教職	1月11日(火)	参集 【総合教育センター】	無
1-3-03-06 1	高校キャリアアップ研修Ⅱ 教職研修Ⅲ 高校	教職	1月18日(火)	参集 【総合教育センター】	無
3-1-10-24 1	中学校技術 基本Ⅳ ～見方・考え方を働かせる エネルギー変換の技術の授業～	教科	1月18日(火)	参集 【総合教育センター】	無
3-4-15-22 1	福祉 基本Ⅱ ～教科「福祉」の教材研究と指導法～	情産	1月20日(木)	参集(現地) 【松本国際高等学校】	無
3-4-10-41 1	産業教育 応用 ～研究成果を生かした授業改善を考える～	情産	1月25日(火)	参集 【総合教育センター】	無
3-4-13-01 1	商業 基礎 ～模擬授業で授業力を高める～	情産	1月27日(木) ～ 1月28日(金)	参集 【総合教育センター】	無

研修講座も残りわずかとなりました。講堂・研修室は大変寒くなってきました。施設内は暖房を入れていますが、研修室によっては寒い部屋もありますので、必要に応じてひざかけ等をご持参ください。

研修講座から

工業 基礎

7月16日(金)

急激に変化する社会情勢の中、学習指導要領では、小学校、中学校、高等学校の発達段階に応じたプログラミング教育の必要性が示されています。研修ではドローンを制御対象とし、プログラミング教育について理解を深めました。様々なプログラム言語を扱い、小中高の発達段階に応じたプログラミング教育について考えました。教師自ら体験し、新しい教材としての可能性を感じることができました。

◆◆受講者のふりかえりから◆◆



ドローンのような動きのある教材は、生徒の興味を引き付けることができ、「楽しく学習する」ことができる良い教材であると感じました。

中学校ではLEDの点滅制御などをプログラミング教育で行っているが、やはり動きのある教材は魅力を感じました。動作を感じながらプログラミングすることが大切だと感じました。



ICTの活用が推奨される中、プログラミングを学ぶ必要性を感じることができました。発達段階でのプログラミング教育の目的の違いを理解することができました。



色判別の確認



飛行中の色判別

上越教育大学教職大学院連携講座

「ICT活用の初歩講座」

7月20日(火)

～講座紹介～

本講座では、GIGAスクール構想における授業づくりになかなか踏み出せない先生や、プログラミング教育が進む一方で苦手意識をもつ先生を対象に、明日の授業で活用する意欲をもっていただくことをねらいとして、様々な体験をしていただきました。



午前講義「教科学習におけるICT活用の基礎と実践」
講師：上越教育大学教職大学院 准教授 榊原 範久先生



午前講義「小学校プログラミング教育の基礎と実践」
講師：上越教育大学教職大学院 准教授 大島 崇行先生

午前は、ICT機器の基礎知識の紹介をはじめ、Googleアプリケーションの使い方を実際にタブレットPCを用いて体験しました。午後は、プログラミングの基本構造をはじめ、スクラッチを使ったプログラムの作成や、作成したプログラムをmicro:bitへ送信する、という体験をしました。

◆◆受講者のふりかえりから◆◆

・コンピューターは道具のひとつということ、そして「教える」ことにしぼられるのでどうしてもためらってしまう面があったのですが、子どもたちに聞いてみたり、ふってみたりしてもよいことをお聞きし、少し気持ちが楽になりました。
・プログラミング学習の手法と具体的な体験に触れることができました。プログラミング学習は、難しい記号やパソコン操作が要求されると思っていましたが、論理的思考や試行錯誤が重要で、ソフトの面で充実していることがわかり安心しました。

教職員研修会サポートの様子から

センターの研修講座「クラスの中の気になる子の支援 基本Ⅰ～小学校通常学級～」(9月22日実施)を受講しました。講座では、特別な支援を必要とする子どもへの支援と、多様性を認め合える集団づくりへの支援の両面について、学校の具体的な場面を通して考え合いました。

校内の研修会でも取り入れたいと思い、教職員研修会サポートを利用して校内研修会を計画しました。

Y小学校 S先生



講座担当の専門主事

対象講座を受講された先生が講師となって行う研修会において、研修講座で行った内容を校内研修でも取り入れたいと相談を受けました。そこで、研修会の運営やワークショップの内容等を一緒に考え、サポートしました。

研修会のねらいは、「それぞれの学級や教室の状況に応じたユニバーサルデザインを考え、クラスの発達障害等の配慮を要する子どもへの支援について具体的な手だてを見出せるようにする」としました。



校内研修会 当日の様子



Zoomで総セの担当専門主事ともオンラインで研修内容を共有しました



先生方は、一人一台のChromebookを使用して研修資料を閲覧しながら、熱心にメモをとっていらっしゃいました。意見交換ではクラスでの実践をイメージしながら理解を深めている様子がありました。



研修に参加した先生の感想

自分や自分が関わるクラスのことを振り返り、自分の考えを書き込んだり聴き合ったりして考え合う場を通して、子ども理解や支援のポイントを学ぶことができました。

校内研修会を中心となって進めたY小学校S先生の感想

一方的な伝達とならないよう、教職員の日々の実践が照らされるようにとご助言いただいたので、ICT機器を活用しながら本校職員が学び合える場に行うことができました。教室のUD化や教師の言葉かけの仕方等の合理的配慮についてご助言いただき、大変内容の濃い研修にすることができました。



総合教育センターより

研修講座では、先生方がアイデアを出し合うことで、互いの悩みをチームとして解決していくプロセスを、短時間で体験できる手法も紹介しています。来年度も教職員研修サポートは継続します。サポート対象の研修講座を是非受講していただき、校内研修の更なる充実のために教職員研修サポートの活用をご検討ください。